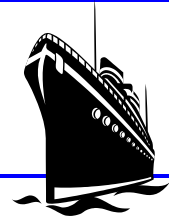


MSI Marine News

トピックス



●海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご覧ください。(http://www.ms-ins.com/marine_navi/)

梅雨・台風シーズンの商品事故対策

これから梅雨の時期を迎え、雨濡れなどによる商品の損害が多くなります。今回は昨今災害をもたらした気象事例を振り返るとともに、豪雨や台風からお客さまの商品を守るための主なチェックポイントをご紹介します。

1. 風水災等の災害を受けやすい日本

春から夏への季節の変わり目には梅雨前線が停滞し、ぐずついた天候が続きます。台風や前線を伴った低気圧が日本付近を通過するときには広い範囲に大雨を降らせますが、特に梅雨の終わりには積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことにより集中豪雨を引き起こす傾向があります。激しい雨が一定の地域に数時間にわたって降り続くことにより、河川の氾濫や土砂災害が発生します。また、台風が引き起こす暴風、高波、高潮などによっても災害が発生します。以下、近年の主な気象災害事例をご紹介します。

(1) 平成 26 年 8 月豪雨による広島市の土砂災害

2014年(平成26年)7月30日から8月26日にかけて、台風11号、12号および前線と暖湿流の影響により西日本から東日本の広い範囲で豪雨が発生、各地で甚大な被害をもたらした。特に8月20日未明に1時間降水量120mmを記録した広島市では、住宅地で大規模な土砂災害が発生、76名もの尊い命を奪った他、約4,700戸の住宅が被害を被った。

(2) 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨

台風18号等により、栃木県日光市で観測史上最大となる24時間降水量551mmを記録する等、関東、東北で記録的な大雨が発生した。大雨の影響で、鬼怒川の堤防が決壊し約4,000haが冠水した茨城県常総市の他、各地で土砂災害、浸水等による甚大な被害が発生、死者8名、負傷者80名の人的被害に加え、約20,000戸の住宅が全半壊または床上・床下浸水の被害を被った。

2. 豪雨や台風から商品を守るために

気象庁では豪雨や台風による災害発生に備え、注意報・警報を発表しています。また、全国の地方気象台はその地域の特性を含めたきめ細やかな情報を発表し、それぞれの地域に合った防災上の注意を呼びかけています。これらの情報をこまめにチェックし、日ごろから防災計画や危機管理体制を整えておくことが重要です。以下に商品事故防止のための主なチェックポイントをご紹介しますのでご活用ください。

～ 主なチェックポイント ～

- 集中豪雨や台風の襲来前に商品を屋内に移動させる。
- シート・カバー、土嚢を準備する。
- 商品は安定したパレットやラック等に置き、床に直置きしない。
- 湿気に弱い商品はパレットやラック等の上段あるいは2階以上に蔵置する。
- 屋内に保管する商品であっても、雨漏りの危険性がある場合には極力シート掛けを行う。
- 湿度によりカートン・ボックスの強度が弱まるため、積み重ねは極力避ける。
- やむを得ず屋外に商品を保管する際や平ボディラックで商品を輸送する際にはシート掛けを行い、シートのサイズや状態を十分に注意してしっかり留める。
- 保管倉庫周辺の排水口をつまりがないように清掃する。
- シート・カバーを取り外す際にはシートにたまった水が商品にかからないよう注意する。

3. 商品事故防止ポスター（雨濡編）のご紹介

弊社ではこれら商品の雨濡対策のポイントをイラストと共にまとめたポスターをご用意しております。本格的な梅雨や台風のシーズンを迎えるにあたり、物流に携わるお客さまの商品事故防止にお役立ていただけましたら幸いです。ポスターをご希望のお客さまは弊社の営業担当者にご照会ください。



ポスターサイズ A1サイズ (幅約60センチ × 縦約85センチ)

4. 「集中豪雨や台風に備えて」のご案内

弊社では、集中豪雨や台風襲来シーズンを迎えるにあたり、関連情報および損害防止・軽減のための点検ポイントをまとめた資料「集中豪雨や台風に備えて」をご案内しております。2016年度版を6月中旬頃にリリース予定ですので、ご希望のお客さまは弊社の営業担当者にご照会ください。

<参考文献一覧>

内閣府 防災情報HP <http://www.bousai.go.jp/index.html>

気象庁HP www.jma.go.jp

各地の気象台・施設等機関一覧 <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/link/link1.html>

以上